Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.294
2019.9.25
（毎月1回25日発行）

【真朱（しんしゅ）】ややくすんだ朱色。地域創造のシンボルカラー。

地域創造は、「文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり」の支援を目的に、1994（平成6）年9月30日に設立され、25周年を迎えました。無限と先鋭を表すシンボルマーク、古墳の内壁の彩色など古代から用いられてきた貴重な天然顔料である辰砂（硫化水銀の鉱物）の朱色をシンボルカラーとして、初心を忘れず活動しています。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
地域創造設立25周年ご挨拶
年表 文化施策に関わる主なできごと
財団からのお知らせ……4
ステージラボいわきセッション開催のお知らせ／（一財）自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始／令和元（2019）年度「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」スタート／令和元（2019）年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」終了報告／令和元（2019）年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」終了報告
今月の情報……6
地域通信／特集 アートプロジェクト
今月のレポート……12
北海道白老町　飛生芸術祭2019「僕らは同じ夢をみる—」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4183　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

地域創造は25周年を迎えました。

地域創造は、「文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり」の支援を目的に、1994年9月30日に設立されました。地方公共団体、公立文化施設、地域の文化・芸術の担い手の皆様のご理解・ご協力により、これまでさまざまな事業に取り組むことができたことを心から感謝申し上げます。

2017年の「文化芸術基本法」の制定や、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年には大阪万博の開催など、地域の文化・芸術を巡る環境も変化の時を迎えています。こうした変化の中、地域創造も時代に即した見直しを図りながら、事業の推進を図ってまいりたいと考えております。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

●実績件数で振り返る地域創造のあゆみ

地域創造は、①地域における文化・芸術活動を担う人材の育成（研修交流事業）、②公立文化施設の活性化の支援（公共ホール等活性化支援事業）、③地域伝統芸能の保存・継承の支援（地域伝統芸能等保存事業）、④地域の文化・芸術環境づくりに関する情報発信・調査研究（情報交流・調査研究事業）を事業の4つの柱としてこれまで実施してまいりました。主な実績を簡単にご紹介します。

研修交流事業

公立文化施設の職員を対象とした実践的な研修を実施し、「ステージラボ」（アートミュージアムラボ含む）の受講生は3,190人を数えます。また、演劇の手法を使ったワークショップを行う「リージョナルシアター事業」は34団体で実施され、それぞれの地域の劇場・ホール、美術館等の運営に活用されています。

公共ホール等活性化支援事業

公立文化施設の事業に対する支援として、クラシック音楽を地域に届けるアウトリーチ事業とホールでの公演を行う「おんかつ」は370団体、おんかつと同様の枠組みでコンテンポラリーダンスの新しい表現にふれる機会を提供する「ダン活」は136団体へアーティスト、コーディネーターの派遣を行ってきました。また、複数の公共ホールが共同して演劇の巡回公演と地域交流プログラムを行う「演劇ネットワーク事業」では23作品が上演され、171団体が参加、公立美術館による共同巡回展を支援する「公立美術館活性化事業」では58の巡回展が行われ、193館が参加しました。地方公共団体等が主体的に取り組む地域の文化芸術活動に対する助成は4,600件となっています。そのほか、「邦楽地域活性化事業」では邦楽の魅力にふれる機会を提供するなど、公立文化施設や地方公共団体が行う自主的な文化芸術事業の取り組みを支援してきました。

地域伝統芸能等保存事業

全国各地の伝統芸能や古典芸能が一堂に会する「地域伝統芸能まつり」では、190件の祭りや伝統芸能を上演してきました。また、地域の伝統芸能を映像に記録保存する事業の支援を行い、ウェブサイト「地域文化資産ポータル」では現在544件の映像資料をご覧いただけます。

情報交流・調査研究事業

「地域創造レター」、雑誌「地域創造」の発行や「地域創造フェスティバル」、ウェブサイト等による情報発信を継続するとともに、調査研究事業として、約5年ごとに行う「地域の公立文化施設実態調査」のほか、変化する環境のなかで関心の高い事柄をテーマに年次調査を行っています。また、財団設立10周年を機に、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰するため、平成16（2004）年度から「地域創造大賞（総務大臣賞）」を実施し、これまで全国116件の公立文化施設が受賞しています。

今後も、文化・芸術に対する社会的な期待の高まりや環境の変化にも着実に応えられるよう、地方公共団体や公立文化施設の皆様のニーズを汲み取り、地方が自ら考えていく元気で創造性豊かな地域づくりを支援していきます。

※実績数は平成30（2018）年度までの延べ件数

●文化施策に関わる主なできごと（地域創造の取り組みは色文字）

1980年代	•劇団四季「CATS」が仮設劇場でロングラン（1983） •セゾン文化財団設立（1987）　•ふるさと創生1億円事業（1988） •文化施設建設などに充当できる「地域総合整備事業債」創設（1988） •アサヒビール芸術文化財団設立（1989） 【主な文化施設開場】中新田バッハホール（1981）、世田谷美術館（1986）、札幌芸術の森（1986）、サントリーホール（1986）、伊丹市立演劇ホール（1988）、たんば田園交響ホール（1988）、広島市現代美術館（1989） 【主な芸術祭等開始】霧島国際音楽祭・講習会（1980）、利賀フェスティバル（1982）
1990（平成2）年 〜 1993（平成5）年 バブル経済崩壊	•芸術文化振興基金創設（1990） •社団法人企業メセナ協議会設立（1990） •日本オーケストラ連盟設立（1990）　•文化経済学会設立（1992） •地方公共団体における文化関係経費の合計が9,553億円のピークに（1993） •大学におけるアートマネージメント教育の端緒となる慶應義塾大学アート・センター設立（1993） 【主な文化施設開場】水戸芸術館（1990）、東京芸術劇場（1990）、アステールプラザ（1991）、愛知芸術文化センター（1992）、北九州市立響ホール、高知県立美術館（1993） 【主な芸術祭等開始】パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌（1990）、ミュージアムシティ天神（1990）、サイトウ・キネン・フェスティバル松本（1992）
1994（平成6）年	•国土庁「ステージラボ」開催 **財団法人地域創造設立（9月30日）** •ステージラボを地域創造が継承し、財団初の事業として第1回を彩の国さいたま芸術劇場で開催 •「地域の文化・芸術活動助成事業」開始 【主な文化施設開場】横須賀芸術劇場、三重県総合文化センター、彩の国さいたま芸術劇場、アクトシティ浜松
1995（平成7）年 阪神・淡路大震災（1月17日）	•文化庁文化政策推進会議報告書「新しい文化立国をめざして―文化振興のための当面の重点施策について」発表 •「地域創造レター」創刊 •関連団体との共催で第1回「芸術見本市」開催 【主な文化施設開場】東京都現代美術館、能登演劇堂、三鷹市芸術文化センター、豊田市美術館
1996（平成8）年	•文化庁「芸術創造推進事業（アーツプラン21）」創設 •文化財保護法一部改正（文化財登録制度の導入等） •雑誌「地域創造」創刊 •調査「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」実施 【主な文化施設開場】金沢市民芸術村
1997（平成9）年	•すみだトリフォニーホールとの共催により第1回「地方都市オーケストラフェスティバル」開催 •「ステージクラフト」として舞台技術者向け研修事業開始 【主な文化施設開場】世田谷パブリックシアター、札幌コンサートホール、静岡県舞台芸術センター、新国立劇場、すみだトリフォニーホール
1998（平成10）年	•「特定非営利法人促進法（NPO法）」制定 •文化庁「文化振興マスタープラン―文化立国の実現に向けて―」発表 •教育課程審議会において「総合的な学習の時間」の創設を提言 •日本アートマネジメント学会設立 •「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」開始。アウトリーチを全国に普及 【主な文化施設開場】横浜みなとみらいホール、秋吉台国際芸術村、びわ湖ホール、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
1999（平成11）年	•市町村の合併の特例に関する法律（旧合併特例法）施行 •「リージョナルシアター・シリーズ」として東京で地域劇団の第1回フェスティバルを開催 •「市町村立美術館活性化事業」開始 •「映像記録保存事業」として地域の伝統芸能等の保存・継承支援を開始 •「アートアプローチセミナー」として市町村長向け研修事業開始 【主な文化施設開場】静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、なら100年会館、博多座
2000（平成12）年	•NPO法人が運営する日本初の富良野演劇工場開館 •「地域伝統芸能まつり」開始 •「地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究『アウトリーチ活動のすすめ』」実施 •公立文化施設2,941館（「地域の公立文化施設実態調査」より） 【主な文化施設開場】京都芸術センター 【主な芸術祭開始】大地の芸術祭―越後妻有アートトリエンナーレ
2001（平成13）年 アメリカ同時多発テロ（9月11日）	•中央省庁再編により自治省は総務省、文部省は文部科学省に •国税庁「認定NPO法人制度」による税制優遇開始 •「文化芸術振興基本法」施行 【主な文化施設開場】せんだいメディアテーク、石川県立音楽堂 【主な芸術祭開始】横浜トリエンナーレ
2002（平成14）年	•中学校学習指導要領に「邦楽の指導」導入 •文化庁「文化芸術創造プラン（新世紀アーツプラン）」をスタート 【主な文化施設開場】兵庫県立美術館、可児市文化創造センターala、熊本市現代美術館、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 【主な芸術祭開始】アサヒ・アート・フェスティバル
2003（平成15）年	•地方自治法一部改正により指定管理者制度創設 •NPO法人認証数が1万を超える •第1回全国アートNPOフォーラム開催 【主な文化施設開場】北九州芸術劇場、山口情報芸術センターYCAM
2004（平成16）年 新潟県中越地震（10月23日）	•市町村の合併の特例等に関する法律（現行合併特例法）施行 •横浜市「文化芸術創造都市―クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けた提言」 •りゅーとぴあ専属ダンスカンパニー「Noism04」設立 **地域創造設立10周年** •総務大臣賞「JAFRAアワード（現地域創造大賞）」創設 •調査「公立文化施設における政策評価のあり方に関する調査研究」（3カ年）実施 【主な文化施設開場】国立劇場おきなわ、まつもと市民芸術館、金沢21世紀美術館、ミューザ川崎シンフォニーホール、高松市文化芸術ホール、にしすがも創造舎
2005（平成17）年	•能楽、文楽、歌舞伎がユネスコの無形文化遺産に指定 •「地域再生法」施行 •「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」開始 【主な文化施設開場】兵庫県立芸術文化センター、島根県芸術文化センター・グラントワ
2006（平成18）年	•「地域文化資産デジタルコンテンツ発信事業」開始 【主な文化施設開場】青森県立美術館
2007（平成19）年	•文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）創設 •「観光立国推進基本法」施行 •文化・芸術による福祉地域振興財団設立（現・福武財団） •アートNPOの登録数が2,000団体を超える（アートNPOリンク調査） •公立文化施設3,944館（「地域の公立文化施設実態調査」より） 【主な文化施設開場】国立新美術館
2008（平成20）年 リーマン・ショック	•日本の総人口が減少局面に入る •ふるさと納税制度創設 •公益法人制度改革関連3法施行 •中学校学習指導要領で「ダンス」必修化を告示 •演出家がアウトリーチを行う「リージョナルシアター事業」開始 •「地域創造フェスティバル」開始 【主な文化施設開場】十和田市現代美術館、いわき芸術文化交流館アリオス
2009（平成21）年	•総務省「地域おこし協力隊」制度開始 •「邦楽地域活性化事業」開始 •調査「文化・芸術による地域政策に関する調査研究『新［アウトリーチのすすめ］〜文化・芸術が地域に活力をもたらすために〜］』（2カ年）実施 【主な文化施設開場】座・高円寺
2010（平成22）年	•平成の大合併により市町村数が3,234（1995）から1,727に 【主な芸術祭等開始】瀬戸内国際芸術祭、あいちトリエンナーレ、KYOTO EXPERIMENT京都国際舞台芸術祭
2011（平成23）年 東日本大震災（3月11日）	**地域創造の事業内容を再編** •調査「東日本大震災以降の被災県における公立文化施設及び文化行政に関する実態調査」実施 【主な文化施設開場】KAAT神奈川芸術劇場
2012（平成24）年 オリンピック・パラリンピック東京大会開催決定	•「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）」施行 •アーツカウンシル東京設立 •調査「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」（2カ年）実施
2013（平成25）年	•創造都市ネットワーク日本設立 【主な文化施設開場】アーツ前橋
2014（平成26）年	•総務省「公共施設等総合管理計画」の策定を地方公共団体に要請 •文化庁「文化芸術立国中期プラン」公表 **地域創造設立20周年**（財団法人から一般財団法人へ移行） •自主・委託事業におけるアウトリーチ事業の普及（実施率38.6%）（「地域の公立文化施設実態調査」より） 【主な文化施設開場】サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター
2015（平成27）年	•調査「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究 ―文化的コモンズが、新時代の地域を創造する―」（2カ年）実施 【主な文化施設開場】大分県立美術館OPAM
2016（平成28）年 熊本地震（4月14日）	•調査「高齢社会における公立文化施設の取り組みに関する調査研究」実施 【主な文化施設開場】ロームシアター京都（京都会館のリニューアル）
2017（平成29）年	•「文化芸術基本法」施行（「文化芸術振興基本法」一部改正） •文化庁の本格移転に先行し、京都に「地域文化創生本部」設置 •国の関係省庁による「文化芸術推進会議」発足
2018（平成30）年 平成30年7月豪雨（6月28日〜7月8日）	•「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」施行 •「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律」施行
2019（平成31／令和元）年 新元号「令和」施行	**地域創造設立25周年**

財団からのお知らせ

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部　三田・青井・勝田
Tel. 03-5573-4066

●令和元(2019)年度公共ホール現代ダンス活性化事業 参加団体(主会場/アーティスト/日程)

◎Aプログラム
岩手県宮古市(宮古市民文化会館/北尾亘/8月28日～31日)、山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡/セレノグラフィカ/9月4日～7日)、神戸市(神戸アートビレッジセンター/長井江里奈/10月30日～11月2日)、石川県野々市市(野々市市情報交流館カメリア/長井江里奈/11月13日～16日)、広島県三次市(三次市民ホール/中村蓉/11月13日～16日)、福島県白河市(白河文化交流館コミネス/田畑真希/11月20日～23日)、高知県土佐清水市(土佐清水市立市民文化会館くろしおホール/鈴木ユキオ/2020年1月21日～24日)

◎Bプログラム
愛知県半田市(半田市福祉文化会館雁宿ホール/田畑真希/7月20日、21日、8月6日～12日)、熊本県長洲町(ながす未来館/中村蓉/9月6日～8日、10月2日～7日)、東京都国立市(くにたち市民芸術小ホール/東野祥子/11月22日～25日、12月4日～8日)

◎Cプログラム
北九州市(北九州芸術劇場/北尾亘/9月27日～30日)、兵庫県西宮市(西宮市フレンテホール/東野祥子/10月31日～11月3日)、静岡県川根本町(川根本町文化会館/田村一行/12月5日～8日)、長野県上田市(サントミューゼ上田市交流文化芸術センター/北尾亘/2020年1月30日～2月2日)、兵庫県豊岡市(豊岡市民プラザ/田村一行/1月31日～2月3日)、徳島県(徳島県郷土文化会館あわぎんホール/セレノグラフィカ/2月26日～29日)、愛知県小牧市(小牧市市民会館/長井江里奈/3月4日～7日)、福岡県宗像市(宗像ユリックス/鈴木ユキオ/3月19日～22日)

◎問い合わせ
芸術環境部　菅・栗林・川口
Tel. 03-5573-4075

●ステージラボいわきセッション開催のお知らせ

公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和元(2019)年度後期セッションは、いわき芸術文化交流館アリオスにて3コースで開催します。詳細や参加者募集は、次号の地域創造レターおよび当財団ウェブサイトでお知らせします。
※令和2(2020)年度のステージラボは、後期セッション(2021年2月大分県)のみ開催予定です。

◎ステージラボいわきセッション概要
[日程]2020年2月18日(火)～21日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ18日～20日
[会場]いわき芸術文化交流館アリオス
(福島県いわき市平字三崎1-6)
[開講コース(予定)]ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび令和2(2020)年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ]一般財団法人自治総合センター
担当:小島　Tel. 03-3504-0841
※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。
https://www.jichi-sogo.jp/
※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月29日(金)必着。

●令和元(2019)年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度は18団体(Aプログラム7団体、Bプログラム3団体、Cプログラム8団体)が参加し、7月から順次、各地で事業がスタートしています。

Bプログラムの半田市(半田市福祉文化会館雁宿ホール)では、昨年度のAプログラムで繋がった参加者と継続して関わっていきたいという思いから、障がい者福祉サービスの通所者と一般公募の参加者で作品を創作しました。さらに、セントラル愛知交響楽団の弦楽四重奏とピアノとのコラボレーションも実現。モーツァルトの『アイネクライネ・ナハトムジーク』などの演奏に合わせて、さまざまな年齢や背景を持つ参加者が一つになり、唯一無二のダンス作品を上演することができました。市民ダンサーや、共演した演奏者の方々が心より楽しんで創作・公演をしていただけたことも非常に印象的でした。他地域でのBプログラムでは、地域資源の映像を活かした作品を創作する企画などが予定されています。

Aプログラムの宮古市(宮古市民文化会館)では、市内の幼稚園と保育園でアウトリーチを実施。園児たちは日常生活をダンスで表現することを楽しみました。園長先生からは「笑顔が普段より輝いていた」とお話をいただきました。ホールで実施した公募ワークショップでは、ダンスに馴染みが薄かった同市にダンスの芽を広げることができました。他地域でのAプログラムでは、小中学校のほか大学のプロジェクトとダンスを出会わせる取り組みなどが予定されています。

お近くで行われる今後のダン活の取り組みをぜひ視察していただければと思います。

公募ワークショップの様子(Aプログラム・宮古市民文化会館/アーティスト:北尾亘)

●令和元(2019)年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」終了報告

公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業は、市町村等で実施してきた「おんかつ」で蓄積したノウハウを活かし、政令指定都市等に普及することを目的とした事業で、今年度は京都市の京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)で実施されました。同ホールでは、今年度より京都ゆかりの音楽家による「Join us(ジョイ・ナス)!〜キョウト・ミュージック・アウトリーチ〜」を実施しています。この機会にアウトリーチを改めて広い視野でとらえ直し、プログラム開発や訪問先への理解促進に繋げていくことを狙いとして、2日間(8月29日、30日)にわたるセミナーが行われました。

1日目は建畠晳さん(京都芸術センター館長・多摩美術大学学長)による講演「社会における芸術の役割〜京都を例に」、吉本光宏さん((株)ニッセイ基礎研究所 研究理事)による講演「アウトリーチから始まる地域の活力創出」のほか、おんかつ支援登録アーティスト・加藤直明さん(トロンボーン)による実演などが行われました。2日目は地域事例として、榎本広樹さん(りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館音楽企画課長)が新潟での取り組みについて、梶田美香名古屋芸術大学教授は研究的観点からみたアウトリーチの現状と課題などについて、アウトリーチフォーラム事業愛知セッションでの研究も取り入れた講演をされ、京都コンサートホールの登録アーティストによる実演も披露されました。

両日で、全国から地方公共団体やホールの職員を中心に100人近い方々が参加され、アウトリーチについての認識が深く掘り下げられた時間となりました。

2日目のパネルディスカッションの様子

●令和元(2019)年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」終了報告

複数の公共ホールが共同して演劇作品の上演とワークショップなど地域交流プログラムを行う「公共ホール演劇ネットワーク事業」が終了しました。

令和元年度は7月から8月にかけて、9つの公共ホールで『めにみえない みみにしたい』の上演を行いました。この作品は、次代の演劇界を担う人材として注目を集める演劇作家・藤田貴大さんが作・演出を手がけ、子どもから大人まで一緒に楽しめる作品となっています。演劇ならではの見立てや、しりとりやじゃんけんといったゲーム要素、しゃぼん玉などを使った視覚効果など、多様な手法で子どもたちの観劇の敷居を下げる一方、少女の成長や自立、戦争というモチーフにも挑み、子どもはもちろん大人も楽しめる公演となりました。

地域交流プログラムは、地図のワークショップを行いました。「今朝、最初に話した人は?」など藤田さんが参加者に向けてインタビューをしながら、全員で再現されたそれぞれの風景を藤田さんが構成し、みんなで小さな演劇作品を発表しました。

参加したホールの担当者は「他館のスタッフと会議を重ねることでさまざまな情報交換をしながら公演制作を行うことができた。十分満足された数多くのお客様の表情を見ていると、良質な演劇作品を上演し続けることで、市民の演劇に対するニーズはまだまだ伸びるという手応えを感じた」と事業を振り返っていました。

本事業は令和2(2020)年度も実施予定です。詳しくは当財団ウェブサイト等をご確認ください。

上:さいたま公演の一場面(撮影:細野晋司)
下:地図のワークショップ(伊達市)

●「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　仕田・佐藤
Tel. 03-5573-4078

●令和元(2019)年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」『めにみえない みみにしたい』(作・演出:藤田貴大)

◎開催地(会場/地域交流プログラム実施日/公演日)
- さいたま市(彩の国さいたま芸術劇場/2019年7月7日/7月13日〜15日)
- 北海道富良野市(富良野演劇工場/8月2日/8月3日)
- 北海道士別市(あさひサンライズホール/8月4日/8月5日)
- 北海道伊達市(だて歴史の杜カルチャーセンター/8月7日/8月8日)
- 札幌市(札幌文化芸術劇場/8月9日/8月10日、11日)
- 福岡県久留米市(久留米シティプラザ/8月14日/8月15日)
- 福岡市(福岡市民会館/8月16日/8月17日、18日)
- 熊本県(熊本県立劇場/8月19日/8月20日、21日)
- 埼玉県東松山市(東松山市民文化センター/8月23日/8月24日)

◎問い合わせ
芸術環境部　山本・藤原
Tel. 03-5573-4079

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　児島・三田

●2019年12月号情報締切
10月31日(木)

●2019年12月号掲載対象情報
2019年12月～20年2月に開催もしくは募集されるもの

※お詫びと訂正
前号(9月号)の地域通信欄に以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。
P6　静岡県藤枝市「藤枝市民会館開館50周年記念 東京混声合唱団藤枝特別公演」
加藤まさ　→　加藤まさを

クリスマス・新春企画情報求む！
12月号(11月25日発行予定)では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。
Tel. 03-5573-4183
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り：10月31日(木)

北海道・東北

●札幌市
札幌市芸術文化財団
〒060-0001　札幌市中央区北1条西1丁目
Tel. 011-271-1950　丸田鞠衣絵
https://www.sapporo-community-plaza.jp/theater.html

「風に聴く―みたびまみえる―」
北海道出身の現代舞踊家・能藤玲子が主宰する能藤玲子創作舞踊団による舞踊と、今年没後30年となる北海道出身の彫刻家・砂澤ビッキの代表作《風に聴く》を舞台美術に使用した公演。1986年の初演から33年の時を経て、今回も“自然”を意識し、人間の性をあぶり出す新作が上演される。
[日程]10月18日、19日
[会場]クリエイティブスタジオ(札幌市民交流プラザ3階)

能藤玲子創作舞踊団第19回公演『風に聴く』(1986年12月5日／北海道厚生年金会館大ホール)

●北海道釧路市
北海道立釧路芸術館
〒085-0017　釧路市幸町4-1-5
Tel. 0154-23-2381　熊谷麻美
http://www.kushiro-artmu.jp/

宇宙象　嶋崎誠展
ガラスの魂が語る
北海道にて鋳造ガラスの研究・制作を行っている現代美術家・嶋崎誠の集大成として開催される展覧会。30年の月日をかけて制作された鋳造ガラス彫刻をはじめ、大型絵画やドローイングなどが展示され、表現の根底に流れる作家の思考にふれることができる。会期中には、作家によるアーティストトークやギャラリートークなどが開催される。
[日程]9月13日～11月7日
[会場]北海道立釧路芸術館

●山形県東根市
まなびあテラス
〒999-3730　東根市中央南1-7-3
Tel. 0237-53-0229　井上祐里
https://www.manabiaterrace.jp/

100%ORANGE展
本の絵、絵の本
美術館と図書館をもつ施設形態を活かし、100％ORANGEの本まわりの仕事にスポットを当てる。及川賢治と竹内繭子、2人組のイラストレーターである彼らが手がけた装丁や挿画などを展示するほか、会場内ではそれらの書籍を読むことができる。また山形との繋がりも深く、同館のロゴを手がけた山形のデザイン会社akaoni(アカオニ)とコラボレーションしたポスターやパッケージのデザインワークも並ぶ。
[日程]8月31日～11月4日
[会場]まなびあテラス

●福島県国見町
国見町観月台文化センター
〒969-1761　伊達郡国見町大字藤田字観月台15
Tel. 024-585-2676　佐藤孝法
https://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/

国見町観月台文化センター開館25周年記念　観月台クラシックフェスティバル
地域の人々に本格的な音楽を届けることと地元農産物をPRすることを目的に、開館25周年記念事業として開催されるクラシックフェスティバル。中鉢聡(テノール)や須川展也(サクソフォーン)らが出演する全6回のコンサート終演後には、“音のプロ”である出演アーティストと、“農のプロ”である地元農家による対談も行われる。会場には農作物の特設マルシェが設置されるなど、音楽と地元の食を満喫できる。
[日程]9月29日、10月12日～14日、20日
[会場]国見町観月台文化センター

関東

●茨城県日立市
日立市民科学文化財団
〒317-0073　日立市幸町1-21-1(日立シビックセンター内)
Tel. 0294-24-7720　滑川智也
http://www.civic.jp/center/

うたとお話で綴るオペラコンサートPart.Ⅵ ～ワイン編～
オペラの楽曲とそれにちなんだお話によるコンサートシリーズ。初めて飲食がテーマとなる今回は、イタリアオペラの名曲と、日本ソムリエ協会認定ワインエキスパートによる、オペラ作品に登場するワインなどについてのお話を楽しむことができる。テーブルと椅子が並んだ会場でワインを飲みながらアリアを聴きけば、さながらオペラの一場面に参加しているような雰囲気を味わうことができる。
[日程]10月14日
[会場]日立シビックセンター

●埼玉県川越市
指定管理者NeCST
〒350-1124　川越市新宿町1-17-17
Tel. 049-249-3777　鎌田裕子
https://www.westa-kawagoe.jp/

千住真理子のヴァイオリン名曲選～どこかで聴いたクラシック～
オープン5周年を記念して、ヴァイオリン奏者・千住真理子、指揮者・大井剛史、東京交響楽団を招聘するクラシックコンサート。『スラヴ舞曲 第5番』など「5」にちなんだプログラムを揃える。また、10月4日に行われる東京交響楽団弦楽四重奏団によるレクチャーコンサート「4×4＝∞

弦楽四重奏の饗宴」と併せて聴くことで、コンサートをより楽しむことができる。
[日程]11月4日
[会場]ウェスタ川越 大ホール

●千葉県館山市
千葉県南総文化ホール
〒294-0045　館山市北条740-1
Tel. 0470-22-1811　石井朝美
https://www.nanso-bunka.jp/

NANSO舞台芸術創造プロジェクト第23弾　県民参加創作音楽劇『パラレルドリーマー』

南房総地域における舞台芸術の創作活動の定着、人材の発掘や育成を目的として2007年に始まった「NANSO舞台芸術創造プロジェクト」の第23弾。前作で演出を手がけたtekkanが出演者の個性を活かして書き下ろした脚本による市民参加型ミュージカル公演で、約5カ月にわたり練習を重ねた6歳から72歳までの30人と、元宝塚歌劇団トップ娘役の森奈みはるが出演。
[日程]10月27日
[会場]千葉県南総文化ホール

●千葉市
千葉市文化振興財団
〒260-0013　千葉市中央区中央2-5-1　千葉中央ツインビル2号館4F
Tel. 043-221-2411　石坂卓
http://www.f-cp.jp/bunka.html

学生のための舞台衣装制作講座～みんなでツクル・ライブ～

AKB48グループを中心に衣裳制作やスタイリング・ヘアメイクを手がける(株)オサレカンパニー監修による講座。中学生から大学生までの受講生60人が全6回のワークショップを通じて、10月20日の音楽ライブで出演者が着る衣裳を制作する。若い世代が親しみやすい題材を取り上げることで、舞台芸術を身近に感じてもらい、文化芸術の裾野拡大を図る。
[日程]9月15日、16日、22日、10月5日、14日、19日、20日
[会場]千葉市文化センター

昨年度の様子

●東京都世田谷区
せたがや文化財団
〒154-0004　世田谷区太子堂4-1-1　キャロットタワー5F
Tel. 03-5432-1535　黒田真礼
https://www.setagayamusic-pd.com/

せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート

財団の音楽監督である池辺晋一郎の呼びかけにより2010年に発足したせたがやジュニアオーケストラ。現在、区内の小学3年生から高校3年生まで95人が活動している。3月の定期演奏会に向けた中間発表として、今年度から取り組んでいる曲目を披露するとともに、舞台上のオーケストラに並んで鑑賞できるスペシャルシートや、終演後の楽器体験などが予定され、多角的に演奏を楽しめる。
[日程]10月13日
[会場]世田谷区民会館

●東京都調布市
調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026　調布市小島町2-47-1(調布市グリーンホール内)
Tel. 042-481-7611　白勢綾子
https://www.chofu-culture-community.org/

調布能楽odyssey破「狂言×ミライ×能」

調布・深大寺が古くから能楽と縁の深い地域であることから取り組むシリーズ第2弾の公演。次世代への継承をテーマに、深大寺で活動する「深大寺こども薪能」の子どもたちや若手能楽師も出演する。初心者でも比較的わかりやすい演目をセレクトし、ユーモアたっぷりの狂言『居杭』『禰宜山伏』(大蔵流)と、幽玄な世界感ながらテンポの良い『経政』(観世流)を取り上げる。
[日程]10月6日
[会場]調布市文化会館たづくり

●東京都板橋区
板橋区立美術館
〒175-0092 板橋区赤塚5-34-27
Tel. 03-3979-3251　渡辺俊夫
http://www.itabashiartmuseum.jp/

アヴァンギャルド画家たちの東京

開館40周年とリニューアルオープンを記念して開催される展覧会。ヨーロッパから紹介されたフォービスムやシュルレアリスムに影響を受けた戦前の作品、戦後のルポルタージュ絵画など、「アヴァンギャルド」に分類される作品を多数所蔵する同美術館のコレクションの中から、2017～18年に新たに収蔵した長谷川利行《水泳場》、野田英夫《上野山下風景》、麻生三郎《女》などを含め、明治以降日本の芸術の中心地となった「東京」を描いた作品を紹介する。
[日程]9月7日～10月6日
[会場]板橋区立美術館

北陸・中部

●石川県金沢市
石川県立美術館
〒920-0963　金沢市出羽町2-1
Tel. 076-231-7580　村瀬博春
http://www.ishibi.pref.ishikawa.lg.jp/

美術館創設60年のあゆみ いと愛でたし　石川の美術

江戸時代より水準の高い美術工芸の盛んな地域に立地する石川県立美術館の創立60年を記念して開催される展覧会。野々村仁清『色絵雉香炉』をはじめとする収蔵作品や寄託作品の中から選ばれた300点の展示を通じて、美術館の個性を見直すとともに、石川の美術を改めて認識し、その魅力を全国に発信する。
[日程]8月31日～10月7日
[会場]石川県立美術館

●長野県松本市
松本市美術館
〒390-0811 松本市中央4-2-22
Tel. 0263-39-7400　渋田見彰
http://matsumoto-artmuse.jp/

長野県信濃美術館・松本市美術館交流展「日本画の冒険者たち―この秋、信州の名品に出会う―」

松本市美術館と、2021年のリニューアルオープンに向けて休館中の長野県信濃美術館による初の共同企画として、両館の日本画コレクションから選りすぐった菱田春草や西郷孤月など、長野にゆかりのある作家の作品約80点が展示される。長野県や松本地域の日本画の変遷をたどり、当時の作家たちの、今なお受け継がれている感性や心意気を感じることができる。
[日程]9月21日～11月24日
[会場]松本市美術館

●静岡市
静岡市民文化会館
〒420-0856　静岡市葵区駿府町2-90
Tel. 054-251-3751　鈴木芳徳
http://loudhill.jp

エイトビートSTAGE3.00 静岡完全オリジナル新作舞台公演『FIVE STAR』

静岡の人々によるオリジナル作品を創作・発信する「ラウドヒル計画」の一環として2016年に旗揚げした、静岡男8人の舞台集団「エイトビート」による第3弾公演。今回は、女子高校生～ア

ラフォー世代が所属する「フレッシュビギナーズ」、障がい者によるチーム「ファンキーノーボーダーズ」によるオープニングアクトも加わり、完全静岡オリジナルのエンターテインメント舞台劇となっている。
[日程]10月5日、6日
[会場]静岡市民文化会館

近畿

●三重県鳥羽市
鳥羽市立海の博物館
〒517-0025　鳥羽市浦村町大吉1731-68
Tel. 0599-32-6006　石原真伊
http://www.umihaku.com/

クジラはアートだ！

古来より絵画や民芸品のモチーフになり、骨やヒゲは生活用品に加工されるなどさまざまな形で表現・利用されてきたクジラについて、その魅力や面白さを紹介する。クジラを素材としたアート作品や絵本などが展示され、子どもたちや海外の人でも感覚的・直感的に楽しめる。クジラと人の関わりが多角的に紹介され、クジラや海に対する興味が深まる展覧会となっている。
[日程]7月13日～11月17日
[会場]鳥羽市立海の博物館

歌川国芳『大漁鯨のにぎわひ』

●兵庫県姫路市
姫路市立美術館
〒670-0012　姫路市本町68-25
Tel. 079-222-2288　安部すみれ
http://www.city.himeji.lg.jp/art.html

生誕120年 文豪川端康成と美のコレクション展

ノーベル賞作家・川端康成（1899～1972）の生誕120年と姫路市制施行130周年を記念した、姫路市立美術館と姫路文学館の初の共同企画。美術コレクターでもあった川端のコレクションの中から、古今東西の絵画、工芸、彫刻が姫路市立美術館で展示され、姫路文学館では、川端の愛用品や、交流のあった文豪らの書が紹介される。国宝を含む約280点が一挙公開される貴重な機会。
[日程]9月14日～11月4日
[会場]姫路市立美術館、姫路文学館

●兵庫県宝塚市
宝塚市文化財団
〒665-0845　宝塚市栄町2-1-1
Tel. 0797-85-8844　三木智子
https://takarazuka-c.jp/

0歳からのクラシックコンサート～声と響きとハーモニー～

0歳から入場可能で、家族で楽しめるコンサート。5回目の今回は、歌の世界を3部構成で紹介する。第1部では『浜辺の歌』や『早春賦』などの親しみやすい歌曲が演奏され、第2部では音楽に合わせて手遊びすることで、音楽を身体で感じることができる。第3部ではオペラ『カルメン』を、本公演のために書き下ろされた紙芝居と、歌唱で上演する。
[日程]10月19日
[会場]宝塚ベガ・ホール

●和歌山県和歌山市
和歌山県立近代美術館
〒640-8137　和歌山市吹上1-4-14
Tel. 073-436-8690　藤本真名美
http://www.momaw.jp/

生誕130年記念 せんぱん―前川千帆の版画―

版画家・漫画家前川千帆の生誕130年を記念し、館所蔵の版画作品を中心に約70点を展示する。新聞社に勤め、ジャーナリズムの世界で活躍した千帆は、1931年から読売新聞に連載の漫画『あわてものの熊さん』で一世を風靡した。またその一方、版画界における重要人物のひとりとして、日本の近代版画の発展にも貢献。謙虚な人柄そのままに表現された素朴な作風が広く愛されている。
[日程]9月10日～10月20日
[会場]和歌山県立近代美術館

前川千帆《温泉宿》（1940年頃／木版、紙）

中国・四国

●島根県浜田市
浜田市教育文化振興事業団
〒697-0024　浜田市黒川町4175
Tel. 0855-22-2100　野津・川神
http://www.sekio.jp/

浜田開府400年記念・住民参加創作ミュージカル『群青～濱田誕生、そして明日へ～』

浜田藩開府400年を記念して上演される創作ミュージカル。浜田ゆかりの偉人たちの生き様を通して400年の歴史をたどりながら、現在の地域の課題や明日への希望を探す人々の姿を描く。出演者は、浜田市や近隣市町から集まった10歳代～70歳代の約60人。地域の文化力を結集して上演し、次代を担う青少年や地域住民に芸術的感動を伝え、地域文化の振興発展に資することを目的としている。
[日程]10月11日、12日
[会場]石央文化ホール

●島根県益田市
島根県立石見美術館
〒698-0022　益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860　廣田理紗
http://www.grandtoit.jp/museum/

星とめぐる美術

星の動きや配置から世界を把握しようとする占星学と、作家の思考や時代のムードが反映される美術は、ともに人間の性質や社会の動きに焦点を当てて成り立つ。本展は、太陽であれば「自我・自主性」、金星ならば「愛と美」などと占星学で10天体に設定された性質を切り口に、主に20世紀に制作された絵画や写真、彫刻など約60点の美術作品を紹介する。
[日程]9月14日～11月18日
[会場]島根県立石見美術館

●広島県尾道市
尾道市立美術館
〒722-0032　尾道市西土堂町17-19（千光寺公園内）
Tel. 0848-23-2281　黒瀬輝子
https://www.onomichi-museum.jp

広島から発信する現代アート特別展「ここからむこうまで―FROM HERE TO BEYOND―」

2020年度に広島県三原市、尾道市、福山市を舞台に開催予定の現代アートの国際的な芸術祭「ひろしまトリエンナーレ2020 in BINGO」のプレ事業として開催する展覧会。尾道市百島で旧中学校校舎を利活用し活動を行ってきた現代美術作家・柳幸典をはじめ、広島や尾道と関わりのあるアーティスト（小西紀行、もうひとり、小林正人、岩崎貴宏、小金沢健人）による新作を中心に展示する。
[日程]9月7日～10月27日
[会場]尾道市美術館

●山口県周南市
周南市文化振興財団
〒745-0874　周南市徳山5854-41
Tel. 0834-22-8787　西村達也
http://www.s-bunka.jp/bunka/

0歳から楽しむコンサート～パパもママもみんなー緒～Part.4

0歳からの“音育”をテーマにした

コンサートシリーズ。山口県内を中心に活動する4名の演奏家がフルート、サックス、パーカッション、ピアノで子ども向けの楽曲を披露。小さな子どもと保護者がゆっくり楽しめるよう客席を畳敷きに。演奏家自身による絵本の読み聞かせに楽器で効果音を付けるメニューも予定され、子どもが興味をもてるプログラムとしている。
[日程]10月22日
[会場]周南市文化会館

●山口県山口市
山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075　山口市中園町7-7
Tel. 083-901-2222　吉崎和彦
https://www.ycam.jp/

contact Gonzo＋YCAMバイオ・リサーチ展「wow, see you in the next life.／過去と未来、不確かな情報についての考察」

パフォーマンスを中心に行うアーティスト集団contact GonzoとYCAMバイオ・リサーチによるインスタレーションを中心とした展覧会。YCAMでは2015年からDNA解析も可能なバイオラボを設置し、アートや教育等への応用を模索してきた。本展ではcontact Gonzoとチームを組み、1年以上にわたる実験やリサーチを経て、身体に蓄積された経験がどのように過去・未来へ受け継がれていくのかをテーマにした新作を発表する。
[日程]10月12日～2020年1月19日
[会場]山口情報芸術センター[YCAM]

●香川県高松市
高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711　橘美貴
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.08「社会を解剖する」

年に一度の現代アートの展覧会。9回目となる今回のテーマは「社会を解剖する」。現代アートを切り口として社会との関わりを“解剖する”ことで、社会における私たちの立ち位置の再考を促す。発泡スチロール製の小さな家を背負いながら各地を歩くことで公と私の関係を考察してきた村上慧は、本展の看板内部に“住む”ことで広告と私生活の関係に着目する。
[日程]9月28日～11月4日
[会場]高松市美術館

村上慧《移住を生活する(2017年8月28日熊本県熊本市)》(2017年)

九州・沖縄

●福岡市
アクロス福岡
〒810-0001　福岡市中央区天神1-1-1
Tel. 092-725-9317　田島恵
https://www.acros.or.jp/

アクロス・クラシックふぇすた2019

「聴くクラシック、触れるクラシック、感じるクラシック」をテーマに、2日間にわたりさまざまなイベントが開催される。クラシックファンが楽しめるだけでなく、未就学児も入場可能な九響によるファミリーコンサートなども行われ、これまでクラシックに接する機会が少なかった人も気軽にその魅力を味わえる。また「楽器ふぇすた」では楽器の展示・試奏・即売会が行われる。
[日程]10月5日、6日
[会場]福岡シンフォニーホール

●福岡県筑後市
サザンクス筑後
〒833-0047　筑後市大字若菜1104
Tel. 0942-54-1200　松岡優子
https://www.sathankusu-chikugo.or.jp/

おひとり座 西川禎一公演「人形劇おひとり座」

落語調の語り口と巧みな人形扱いで、人形劇の第一人者として全国で活躍する「おひとり座」こと西川禎一の公演。10月20日の公演ではかわいい動物の人形が登場。未就学児入場可能で、大人から子どもまで幅広い年代が楽しめる。22日は明治・大正・昭和を生きた女の一生を「まあ、聞いとくれやす」と笑いと涙で語り掛ける大人向けの演目を上演する。
[日程]10月20日、10月22日
[会場]サザンクス筑後

●大分県大分市
大分県立美術館
〒870-0036　大分市寿町2-1
Tel. 097-533-4500　菅野剛宏
https://www.opam.jp/

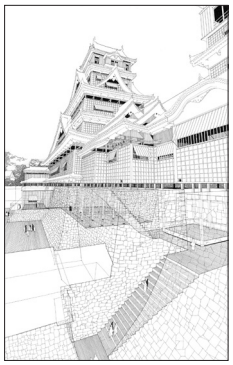
日本の美意識―刀剣と金工―

平安時代後期から始まる日本刀の歴史は古刀(～桃山時代前半)と新刀の時代(桃山時代後半～江戸時代)に分けられる。本展では、各時代の代表的な生産地の刀剣を紹介。五ヶ伝として知られる大和・山城・備前・相模・美濃の古刀や新刀の生産が盛んだった江戸・大阪の刀剣などを時代や地域ごとに展示することで、制作年代や生産地に応じた変化を観察できる。
[日程]9月27日～10月22日
[会場]大分県立美術館

●熊本市
熊本市現代美術館
〒860-0845　熊本市中央区上通町2-3　びぷれす熊日会館3F
Tel. 096-278-7500　加来由侑子
https://www.camk.jp/

田中智之の解体新書展

青のボールペン1本で建築物の内部構造を表現する、驚異的なパース画で知られる田中智之の作品展。近年の多岐にわたる仕事を“解体”して紹介する。まるで建築物をX線で透過したかのような緻密な作画は、通称「タナパー」と呼ばれ、見る人の心を魅了する。期間中、作家本人からタナパーの手法を学べるワークショップも開催(9月28日)。
[日程]8月28日～10月27日
[会場]熊本市現代美術館


田中智之《熊本城》(2005年)

●宮崎県宮崎市
みやざきアートセンター
〒880-0001　宮崎市橘通西3-3-27
Tel. 0985-22-3115　工藤悦朗
https://miyazaki-ac.com

10周年だヨ！からくりアートセンター

宮崎市の中心市街地活性化基本計画により市民の文化活動拠点として開館した同館が10周年を迎え、TOYクリエイターの野出正和によるピタゴラ装置を用いた記念事業を行う。宮崎会場オリジナルの巨大装置や、6日は市民のつくる装置を若草通商店街のアーケードに設置するイベントなど、気軽に立ち寄り楽しめる企画で、同館がより市民の身近な場となることを目指す。
[日程]10月3日～6日
[会場]みやざきアートセンター

特集 アートプロジェクト

前号に続き、全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介します。

※開催地の北から順に掲載。
会は会場、問は問い合わせ先です。
（▭は地域創造助成事業）

●青森県八戸市
10月4日、5日、11日、12日
横丁オンリーユーシアター2019
八戸の中心街に位置する8つの横丁を盛り上げる「八戸横丁月間 酔っ払いに愛を」のアートイベント。今年は2週連続開催。ダンスや演劇、コントなどのパフォーマンスが随所で繰り広げられ、お酒を片手に居合わせた人同士が鑑賞体験を共有し、古くから残る横丁が、アーティストと酔っ払いたちの愛にあふれた劇場となる。
会八戸市の中心街横丁、路面スペース　問酔っ払いに愛を実行委員会（事務局:八戸ポータルミュージアム はっち）　Tel. 0178-22-8228

●仙台市　10月11日～14日
SENDAI OROSHIMACHI Art Marche 2019
せんだい演劇工房10-BOXの館内をはじめ、ウッドデッキや別館 能-BOXも使用して演劇・ダンスの上演のほか、飲食等のブース出展も行われるアートマルシェ。1公演で2作品が上演され、組み合わせの妙を楽しむこともできる「コンビネーションステージ」や、せんだい短編戯曲賞歴代大賞作家の作品9本を劇団短距離男道ミサイルが上演する特別企画など、多彩なアートを1日中楽しめるフェスティバル。

前回の様子

会せんだい演劇工房10-BOX
問せんだい卸町アートマルシェ実行委員会　Tel. 090-4130-1775（赤羽）

●さいたま市　10月13日、14日
埼玉 WABI SABI 大祭典 2019
埼玉の“和”の文化の魅力を見て、感じて、楽しむ野外型フェスティバル。小鹿野歌舞伎などの伝統芸能の披露に加え、書道や盆栽のパフォーマンス、元ちとせや武田真治らを招いたコラボ企画など“和”の伝統と革新を体現するステージイベントにも注目。体験ワークショップも充実しており、埼玉の“和”をまるごと楽しめる。
会大宮公園ほか
問埼玉 WABI SABI 大祭典 運営事務局　Tel. 048-644-5313

平尾成志による盆栽パフォーマンス

●東京都豊島区　9月28日
ボンクリ・フェス2019 “Born Creative”Festival 2019
気鋭の作曲家・藤倉大をディレクターに迎え、さまざまな切り口で“新しい音”を集めた音楽祭。メインのスペシャル・コンサートを今回から昼公演とし、より幅広い世代に向けて開催。電子音楽や、この日しか聴けない曲目、アレンジなど、子どもの頃に“変な音”を面白がったようなクリエイティブな感覚を大人でも体感できるプログラムが揃う。
会問東京芸術劇場
Tel. 0570-010-296

●横浜市　10月12日、13日
横濱 JAZZ PROMENADE 2019
横浜市内約40カ所で、プロアマ合わせ約2,000名によるライブが行われ、街にジャズが溢れる2日間。今年の聴きどころは、みなとみらいホールでのビッグバンドの競演で、個性あふれる5つのバンドが集結する。ほかにも一流アーティストのライブが多数行われるほか、若手アーティストの発掘を目的とした「ちぐさ賞」受賞者によるステージも。
会横浜市内各所
問横濱 JAZZ PROMENADE 実行委員会　Tel. 045-211-1510

●神奈川県逗子市
10月18日～27日
逗子アートフェスティバル2019
市民が中心となって企画・運営し、毎年開催しているアートフェスティバル。7回目の今回は、駅前の空き店舗を活用した会場にアーティストが市民とつくり上げる大型インスタレーションの展示や、10月26日、27日に開催される逗子に縁のあるさまざまなジャンルの音楽が集う「池子の森の音楽祭」のほか、市民がまちを彩る「シティ・キャンバスプロジェクト」などさまざまなプログラムが実施される。
会逗子市内各所
問逗子アートフェスティバル実行委員会　Tel. 046-873-1111（内線:278）

●長野県千曲市
8月1日～10月31日
越ちひろ展 ミライノ色 ミライノ光 ―まちじゅうが美術館―
3年の構想期間を経て開催される千曲市出身のアーティスト・越ちひろの大規模個展。千曲市内の商店など32店舗に新作が設置されるほか、更埴文化会館での約1カ月間の公開制作、アートまちかどでのコラボ商業製品の原画展示など、色とりどりの作品を楽しめる。作家の絵画をモチーフにした記念品と交換できるスタンプラリーも実施。
会千曲市内各所
問アートまちかど（千曲市文化課）
Tel. 026-272-4152

小学校でのワークショップ

●岐阜県岐阜市
8月31日～12月8日
ぎふ演劇シーズン2019
観劇文化が成熟した欧米の演劇シーズンにあやかって、大小さまざまなホールやカフェなども会場にして、色々なジャンルの演劇公演を行う。地元産の良質な舞台を気軽に楽しんでもらうことを通して、岐阜市における豊かな芸術文化環境の創出を目指している。ハシゴ券でキャッシュバックもあり、お得に複数の公演を観劇できる。
会岐阜市文化センターほか
問岐阜市民芸術祭実行委員会
Tel. 058-268-1050

劇団はぐるま『ROBO・ROBO』

●名古屋市　9月7日～11月10日
アッセンブリッジ・ナゴヤ2019
名古屋の港まちを舞台にした音楽と現代美術のフェスティバル。今回は、未経験者に向けプロが演奏指導を行う音楽プログラムや、まちの歴史を起点に市民と制作したアート作品などを展示するアートプログラムのほか、音楽とアートのクロスオーバー型プログラムにも取り組み、ジャンルや観客とアーティストの垣根を超えた交流を生む。
会名古屋港～築地口エリア一帯
問アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会　Tel. 052-652-2511

●愛知県豊田市
10月5日、6日、12日、13日
HYBRID BUNKASAI Ⅱ
市民主体のアートプロジェクト「とよた市民アートプロジェクト」の一環で、昨年度に続き2度目の開催。移転に伴い使用されなくなった高校を舞台に、公募により集まった参加者やゲストアーティスト40組が美術展示、音楽、演劇など多彩な作品の発表を行う。一度は役目

を終えた高校が、新たな発信の場として再び開かれる。
㊐旧豊田東高等学校
問とよた市民アートプロジェクト推進協議会事務局（豊田市生涯活躍部文化振興課内）
Tel. 0565-34-6631

昨年度の様子（撮影：三浦知也）

●滋賀県高島市
9月21日～10月20日
滋賀近美アートスポットプロジェクトVol.2　Symbiosis
滋賀県立近代美術館がリニューアル整備に向けた長期休館期間を利用し、滋賀県ゆかりの若手作家の紹介および開催地域との交流・協働を目指す「滋賀近美アートスポットプロジェクト」の一環で行う事業。今回は、それぞれ現地リサーチや自然との関係性を出発点に、石黒健一、井上唯、藤永覚耶が制作した作品が泰山寺野周辺で展開される。
㊐田中邸長屋（高島市安曇川町田中4915）ほか　問滋賀県立近代美術館　Tel. 077-522-2111

●京都市　10月5日～27日
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019
国内外の先鋭的な舞台芸術を紹介し、創造と交流の実験を試みる芸術祭。10回目の今回は「世界の響き—エコロジカルな時代へ」をテーマに、国外アーティストの招聘を欧米ではなく新しい地域に限定するなど、私たちが直面する環境に対し、二項対立的思考を離れ多角的な視点を提示する。また対話の場として、メイン会場にミーティングポイントを設置。
㊐ロームシアター京都、京都芸術センターほか　問KYOTO EXPERIMENT事務局　Tel. 075-213-5839

●神戸市　10月12日～11月10日
下町芸術祭2019
神戸の下町風情残る長田区南部エリアを舞台に、2015年から2年に1度開催している芸術祭。3回目となる今年は、新長田のさまざまな場所を舞台に、現代美術展示やパフォーマンス、写真展示、ツアーなどが展開され、50組以上のアーティストによって町が彩られる。
㊐長田区南部エリア・地下鉄海岸線各駅　問下町芸術祭事務局（新長田アートコモンズ実行委員会）
Tel. 078-647-7430

下町芸術祭2017 パフォーマンス
ジェコ・シオンポ『神戸を前にして』

●兵庫県淡路市
9月28日～10月27日
Awaji Art Circus 2019
世界12か国・22名のアーティストが淡路島に集結、島内各所でサーカスやジャグリングなどさまざまなパフォーマンスが繰り広げられる。また、アーティストにも島の歴史や自然、文化を堪能してもらうことで、地域活性化を目指す。今年は初めて東北での出張パフォーマンスも行われ、島外にも地方創生の輪を広げる試みが展開されている。
㊐淡路島内各所
問Awaji Art Circus 実行委員会事務局　Tel. 050-3684-4245

●奈良県宇陀市
10月18日～20日、25日～27日
奈良・町屋の芸術祭 はならぁと 2019 こあ
地域の暮らしや文化が息づく建築物を中心としたアートプロジェクト。メインプログラム「こあ」を行う宇陀松山エリアでは、渡辺瑞帆がキュレーターとなり、2017年の同祭で復活を遂げた芝居小屋「喜楽座」を中心に、町全体を劇場ととらえた復活祭を開催。また、旧四郷屋では西山タカスケとヴァレンティーノ・モラディ・ガブリエッリの滞在制作も行われる。
㊐宇陀松山エリア　問奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会　Tel. 0745-80-2312

●和歌山県九度山町
9月29日～10月14日
くどやまアートウィーク2019
歴史・文化の薫り漂うまちなかの空き家や空き店舗、さらには世界遺産に登録された聖地を舞台に、数々の現代アート作品が展示される。また、オープニングではライブペイントやチェロライブ、クロージングでは奉納ライブや灯ろうによるライトアップなど“芸術”にちなんだイベントが催され、現代アート作品の展示に華を添える。
㊐真田幸村ゆかりの地・九度山町の世界遺産、まちなか各所
問くどやま芸術祭実行委員会
Tel. 0736-54-2019

●鳥取県岩美町　10月12日～22日
第12回岩美現代美術展
アーティストが現地で滞在制作を行うアーティスト・イン・レジデンス形式による展覧会。前衛書家の和田彩、韓国から現代美術作家のチョン・イルヨンを招き、鳥取県東部の伝統工芸品「因州和紙」を素材に作品を制作する。ほかにも、因州和紙を使ったW御朱印帳づくりワークショップや地域住民らによるランドアート制作などの関連イベントが開催される。
㊐岩美町中央公民館ほか
問岩美現代美術展実行委員会（岩美町役場商工観光課内）
Tel. 0857-73-1416

●広島県福山市　10月10日～13日
ばらのまち福山国際音楽祭2019
世界で活躍する楽団や演奏家、市民音楽家たちが、ホールのみならず美術館や商業施設など市内各所でコンサートを行い、街中が音楽で溢れる4日間。2回目の今年は作曲家の池辺晋一郎が総合プロデューサーを務める。2019年チャイコフスキー国際コンクールで優勝したセルゲイ・ドガディンのヴァイオリン・リサイタルも開催される。
㊐神辺文化会館、リーデンローズほか　問ばらのまち福山国際音楽祭実行委員会
Tel. 084-928-1117

●広島県廿日市市　10月13日
はつかいち音楽祭 はつかいち平和コンサート2019
多ジャンルの音楽公演を集めた秋恒例の音楽祭を、より地域に密着したプログラムにリニューアル。メインコンサートには31回目を迎える「はつかいち平和コンサート」を行い、同ホールを拠点に次年度発足するプロ室内合奏団の演奏披露のほか、公募による合唱団やプロアマ混成のオーケストラが“平和と共生”の思いを込め演奏する。
㊐はつかいち文化ホールウッドワンさくらぴあ 大ホール
問廿日市市芸術文化振興事業団
Tel. 0829-20-0111

●山口県宇部市
9月29日～11月24日
UBEビエンナーレ
アートによるまちづくりの先駆けとして1961年に始まり、現在では彫刻家の登竜門として海外からの応募・参加もある国際コンクールに発展した歴史ある彫刻展。28回目となる今回は、公募により選考された15点を展示するほか、夜間ライトアップされた彫刻を巡るツアーや作家によるワークショップも開催。他のアートイベントとも連携し、多彩な催しが宇部市全体を盛り上げる。
㊐UBEビエンナーレ彫刻の丘（ときわ公園）　問UBEビエンナーレ事務局　Tel. 0836-51-7282

前回の展示風景

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

北海道白老町

飛生（とびう）芸術祭2019「僕らは同じ夢をみる—」

淺井裕介の巨大泥絵

●飛生芸術祭2019「僕らは同じ夢をみる—」
[主催・企画・制作]飛生アートコミュニティー
[会場]飛生アートコミュニティー（旧飛生小学校）、飛生の森
[会期]2019年9月7日～15日
[出展作家]淺井裕介、石川直樹、国松希根太、富士翔太朗、奈良美智ほか
※7日、8日は有料のオールナイト・アート＆ミュージック＆キャンプ・イベント「TOBIU CAMP2019『森と人との百物語』」を実施。校舎と森の中の作品展示に加え、牧草地を開放したキャンプ、校庭の出店、奈良美智と仲間たちによるライブ、キャンプファイヤーを囲んだウポポ合唱、川村亘平斎による影絵パフォーマンス、指輪ホテルと子どもたちによるパレードなどを展開。
※同時期に白老町内各所で「ウイマム文化芸術プロジェクト2019」（「白老の木彫り熊とその考察展」など）、「まちと、ひとと、アート。」（地域とアーティストが関わる滞在型の催しとして地域の人からの聞き取りでダンスをつくるOrgan Works「町の屋根」、地元の和菓子をリサーチした音楽×朗読「雁月☆泡雪」、羊屋白玉がコーディネートした連続出前講座「トビウ小7年2組　萩野篇」）、白老に伝わる神話をモチーフにした作品に取り組む「Sirkio Project」を実施。

＊飛生アートコミュニティー
1986年開設。白老町の牧場地帯にあった飛生小学校の閉校に伴い、札幌在住の国松明日香（彫刻家）、伴節夫（造形作家）ら数人の芸術家集団が教職員住宅に住み込み、木造校舎・体育館をアトリエにする芸術家村「飛生アートコミュニティー」を共同運営。2002年に明日香の息子である希根太が移住（現在は札幌在住）。仲間と共に町から借り受けて引き継ぎ、アトリエとして活用するとともに地域住民などと森づくりと飛生芸術祭を展開。

北海道白老町の森の中で約33年間続く旧飛生小学校の木造校舎を活用した「飛生アートコミュニティー」(*)。この地を訪ねるのは、第3回飛生芸術祭の取材（雑誌「地域創造」30号）で訪れた2011年以来だ。昨年、10回目を祝うはずが、胆振東部地震のため中止。今年復活した様子を取材するため、9月9日、10日に現地を訪ねた。

誰もが子ども時代にタイムスリップするような森や木造校舎の佇まいは、少しも変わっていなかった。オープニングのキャンプ＆アート＆ライブのオールナイトイベント「TOBIU CAMP」（7日、8日）が終わり、落ち着きを取り戻した校舎や森には、奈良美智が教室を丸ごと子どもたちとのアトリエにしたインスタレーション、淺井裕介が体育館の外壁に描いた巨大泥絵、富士翔太朗が子どもたちとつくった大きな球体の紙製ステンドグラスなどが彩りを添えていた。

驚いたのは参加アーティストの顔ぶれが実に多彩に豊かになっていたことだ。奈良は3年前に飛生の森づくりを見学して以来、毎年約1カ月滞在しているという。「ここでは“ここでできることをやる”というのがコンセプト。教室で僕が描いていると子どもたちが来て一緒に描き始める。久しぶりに子どもを見ながら描いた」と奈良。校舎前の日溜まりで地元の人たちと談笑している姿が本当にリラックスしていた。

噂を聞いて北海道旅行の途中で立ち寄った淺井、幼稚園の頃まで白老に住んでいたという羊屋白玉（指輪ホテル芸術監督）、町民とのダンスづくりを行っている札幌出身の平原慎太郎（Organ Works主宰）…。なかでも「アイヌの友達の家で踊りを見たのが原風景」という羊屋は、教員住宅に滞在し、ウサギに扮した子どもたちとの野外パレードや音楽を楽しみ、白老を学ぶ連続講座を企画するなど、町との長期的な関わりを念頭においた活動を始めている。

誰もが自分の意志でやって来て、森や建物やアイヌの文化が根付いたこの地がもつ不思議な魅力に共鳴し、作品を介した“町民”になっている。ただ作品をつくる・発表するだけではない関わりのベースにあるのが、飛生アートコミュニティーを主宰する国松希根太と仲間たちが2011年から始めた校舎裏の森を整備する「森づくり」だった。

「毎月1～2回、倒木の整理などの作業をしている。地震直前の台風で作品を展開していた樹が倒れたが、木こりの友人からロープで引き揚げる方法を学んで蘇生させた。町内外の森づくりの仲間が増え、祭のスタッフにもなってくれている」

こうした仲間たちとの関係が浮き彫りになったのが、昨年の胆振東部地震だった。芸術祭開催の2日前、みんなが準備に集まっていたときにそれは起きた。

「校舎も作品も無事だったが、空港閉鎖、地震対策優先で仮設トイレも発電機も借りられない。芸術祭は中止、でも町の人と一緒にやる予定だった学校外での催しは実施することを即座に決めた。停電していたが、芸術祭のための食べ物もテントもあった。何より仲間がいる。みんなで語り合いながら、濃密な時間を過ごした。札幌では孤立していて寂しいと、飛生までやって来た仲間もいた。お金を集めて規模を大きくしたりするのではなく、こうやって仲間と集い、創作して楽しい時を過ごす…これが僕たちの芸術祭の原点だ、これでいいんだと改めて実感した」（国松）

一方、芸術祭の取り組みを地域に広げるまちなかプロジェクト「ウイマム文化芸術プロジェクト」「まちと、ひとと、アート。」（左欄参照）も昨年から立ち上がった。2011年から芸術祭の運営に参加してきた木野哲也がディレクションしたものだ。

「こうしたプロジェクトではアーティストが町に滞在し、町民の言葉に耳を傾け、歴史や文化を掘り起こし、町民自らがそれを楽しむことを大切にしている。2020年には国立アイヌ民族博物館を中心にした『ウポポイ（民族共生象徴空間）』がオープンするが、多くの観光客が通り過ぎて行くだけでは意味がない。まずは白老の魅力を自分たちで見つめ直しておく必要があると考えた」

国松は今年42歳。初めて会ったときから歳を重ねたが、森は変わることなく美術や人の温もりを見守っている。飛生は、森に共鳴する人たちを増やし、みんなで文化を介して「同じ夢を見る地」としてそこにあった。

（ノンフィクション作家・神山典士）